

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人あぶくま会		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム(旧やまゆりの里)		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	平成22年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中、入居者が自分のペースで穏やかに生活できる様に支援しています。家庭的な雰囲気の中で「自由に、のんびり、一緒に、楽しく」過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心できる場所作りにつとめています。また、各入居者が出来る範囲で食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など身の回りの事をさせていただくと共に畑作りなどでは職員が教えていただき畑の手入れ、収穫を通し「入居者と職員」が一緒に行った喜びを感じて貰えるようにつとめている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

丸森駅から歩いて約15分、自然環境に囲まれた高台に、仙南ジェロントピアとして特養、デイサービス等福祉ゾーンの一画にホームがある。建物は去年町から移管され民間事業体になったのを機に、「やまゆりの里」からドイツ語の「リリーハイム」として思い新たにケアに取り込もうと、地域密着型として理念の見直しも検討している。入居者も職員も地元の方が多く方言で話し合うなど和やかな雰囲気である。今までは看取りをせず法人の特養で対応して来たが、最後まで見て頂きたいという、入居者や家族の思いに応え関係者の協力を得て、最後までその人らしく生きて頂けるよう話し合っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年10月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 リリーハイム)

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念をふまえ介護にあたるよう職員間で実践に繋げるよう話し合っている	理念はケアの行動指針である。「やすらぎのある生活を」支えたいと理念の実践に努力している。去年建物が町から移管を機に地域密着型事業として理念を見直したいとしているので期待したい。	入居者、家族、地域のニーズや事業所を取りまく状況等の変化、また、ケアの振り返り等をしながら、理念を見直し共有しケアの実践に活かして頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設立地場所が周辺と接点がなく思うように交流が計れない 個々でお茶会参加している入居者あり	周囲に民家は少なく近所付き合いは災害時を含めてこれからであるが、ホームにはボランティアとして、理髪職人、演歌歌手、昔話の語り部、踊りの方等出入りし地域に開かれたホームを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、行政の意見交換の大事な場になるように会議を進めるようにしている その場で出た意見を実現出来るように努めている	運営推進会議は、事業所と地域を結び開かれたホームとして地域の方々の理解を深め協力が得られるよう努力されているが、回数、メンバー、テーマ等を通してより充実し、サービスの向上につなげて頂きたい。	会議は去年4回(町の担当者や地域包括は毎回参加)の開催であったが、県の指導もあり2ヶ月に1回は実施して頂きたい。尚、メンバーもテーマによっては知見を有する方の参加もして頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり密な連絡関係は築けておらず、こちら側からの協力要請を積極的に働きかけたり市町村担当者のもとに出向き関係を築く努力が必要と思われる	町は保険者として、地域密着型として指定したし、事業所を理解し助言指導する責任があるとして、今回の外部評価にも同席された。スプリンクラーの設置や基準省令の解釈、加算手当て等も話し合っていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的に拘束のない介護をこころ日常のがけている	日中は見守り等の対応しながら玄関に施錠はしていない。身体拘束は虐待である事を理解しており、車椅子やベッドに体幹を縛る事や11項目の禁止事項や緊急対応の三原則も理解していた。身体拘束ゼロの手引きも勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待の防止の意識と理解を深め、常にそのことを念頭に置き業務にあたるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にも後見人制度しようしている方がいるが特別に機会を設けて学んではない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分理解してもらえる様説明し納得していただけるようにしている 施設への理解をしていただき、又入居者の方の今までの暮らしやケアの継続が出来る様情報交換を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者本人の求めている事を出来るだけ引き出すようにし、出来るだけ不満を解消できる様に努めている	意見や苦情は、サービスの向上に貴重な情報源として、家族が話し易い雰囲気を作るよう、声掛けをしている。家族との関係もよくいろいろお手伝いを頂いている。外部に意見や苦情の窓口のある事も説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務中のも気付いて問題点や意見を聞き早急に対応するようにしている 会議等では日々見落としする点等について話し合いより良いケアが出来る様努めている	人事評価を含め施設長や管理者と話し合う機会を持っている。日常的な業務内容の改善等は、管理者とよく話しあっている。入浴の回数や畑に耕運機を借用する等、管理者は対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考価制度への反映 年二回の個人面接等で各職員の意見を聞くことに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年よりは研修会参加しているが、まだまだ参加回数不足 研修会参加者から他職員への研修など充実をはかりたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど外部同業者、事業所との交流機会がない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に入所前施設見学等に来ていただいているが、なかなか初期段階で本人からの要望は少なく大半はご家族の意見を介してご本人との信頼関係構築に反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り時点で良く話を聞き、ご家族が何を施設に要望しているのか、施設側がどういった事に対応出来るのか説明させていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースによってはケアマネージャー等と相談し話しを進め、必要に応じたサービスを説明させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に各入居者の出来る事はしていただき、出来ない所は職員と共に行っている していただいた際は感謝の言葉、労いの言葉を忘れない様になっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各入居者の日頃の状態を詳しく家族に報告し現在の状態を分かっていたりできるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への面会等は特に規制なく来ていただいている 外出に関しては家族の方に対応していただくことが多い	認知症の方は馴染みの人、場所、物がある事で混乱しないで生活ができる事を理解し、馴染みの関係を大切にしている。阿武隈荘のキャンプ場、丸森町の植木市に行ったり、法事には家族の協力で参加してる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか入居者同士のみで関係を築くことは難しい為、職員が間に入りその時々に合わせてクッション的な役割になるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望の応じ退所後の相談にあたっている併設の特養に入所する方が多いので特養職員の相談に応じたり本人の面会に行ったりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントを利用している本人からの聞き取り困難な場合は家族等に十分聞き取り行うようにしている	思いや意向は、個別ケアの原点であり、契約後利用者や家族とあって「バックグラウンドアセスメント」の様式に過去の生活の背景などを中心に整理され、共有し思いや意向が介護計画に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時から詳しく聞き取りし、出来るだけ把握できる様に努めている バックグラウンドアセスメントの活用		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より出来るだけ細かく行動記録を取り全職員がその行動状況を把握出来る様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人を尊重し作成しているがより客観的で具体的な介護計画作りを目指して	介護計画は長期短期の目標を具体的に明示し、日々のケアが行なわれている。毎日計画の実施状況をチェックし、客観的で具体的な計画である事を確認している。月に一度モニタリングし3ヶ月毎に計画を見直し家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記述し全職員が情報を共有出来る様にし、気付いた点や改善点については日々のミーティングや会議等で迅速に話し合うようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに可能な限り対応出来るとうに心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力していただけるように働きかけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入所前から通院している医師を継続して受診している。不調の際は併設特養ナースや家族と良く話し合い適切な受診が出来る様に支援している	殆どの利用者は、入居前のかかりつけ医を継続しており、受診は原則家族が付き添っている。ホームの生活や症状、バイタルチェック等は記録して伝えている。夜間の対応や入院等は協力医の丸森病院と提携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師に状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院によっては家族以外へ情報提供してくれないところもあり、家族を仲介して情報を得ているのがほとんどである		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の取り組みしておらず 重度化や終末期へ対しての取り組み行えるよう職員間で話し合い周囲に協力していただき考えていきたい	ターミナルケアは、ホームの対応がよく安心して、最後まで見て頂きたいという希望に、その人らしく最後までどう生きて頂ける支援が出来るかである。介護職員、家族、医療関係者の連携が何処までできるか、出来る事できない事等を話しあって頂きたい。	方針を統一し成文化し早い時点から利用者や家族と話しあって頂きたい。家族の揺れ動く気持ちも大切にし節目には、意思確認し思いを共有して頂きたい。介護職員の医療や看取りの知識やメンタルな面も考えて頂きたい
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で対応についての訓練を行っている 急変等比較的少ないので		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月、10月併設特養と合同で実施	避難訓練も2回実施した。夜間想定も実施し消防署から非常用照明の電池交換も指摘され交換した。スプリンクラー等の設置も手続き中である。避難通路になるウッドデッキが老朽し危険であり改修をして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の話し方に合わせた声掛けをするように心がけている 各々のバックグラウンドを考慮し対応にあっている	入居者の呼び名はその人の思いに合わせて、名前にさんづけで呼んでいる。入居者も職員も地元の人が多く方言で話し合い和やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の希望や自己決定がでるまで待つ事を大事にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れの目安はあるが、基本的には個々のペースに合わせている 食事時間等も体調等、その時々に合わせて臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装等は本人に決めて貰っている 髪型等も施設散髪ボラに本人より要望伝えて貰い出来るだけ本人の希望に添う様努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みを把握し嫌いなもの等には代替え品等で対応している 又、病気等で食事制限ある方多いので工夫出来るだけ楽しみにしていただける様に努めている	食事は生きる意欲につながり楽しみにしており、調理も2名が専門に担当している。糖尿病等で食事制限の人もおり配慮している。職員も同じテーブルで同じ物を食し楽しい食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病気や体調に合わせた支援を心がけている 又、水分や栄養摂取状況が思わしくない方のたいしては職員間で確認し記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアに努めている 歯科医の訪問診療あり そも際相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパッド等各々に合わせたり、時間帯に応じて変えたりしストレスの軽減に努めている	排泄は人の世話にはなりたくないという思いに応え、排泄パターンやサインを見逃さずトイレ誘導をしている。夜は尿取りパットやポータブルトイレを利用する等、できるだけ安眠につながるようして、ストレスの軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握しその人に合った下剤の投与に努めている 十分な水分や軽運動で便秘解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日以外、発汗時、汚染時などは臨機応変に対応 時間帯については対応出来かねることあり	入浴は衛生的な視点からだけでなく、気持ちよく入って頂きリフレッシュ効果も期待したい。入浴は週2回から3回に調整したが夜間入浴などは難しい。希望で個別にあった入浴が毎日できる事が望ましい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の流れを把握しその人に合った休息時間を設定し休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が服薬に関して理解を深める様努めている 又、飲み忘れないよう目配り、確認徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の楽しみごとや役割を見だし場面を作るよう努力している 強制的にならないよう注意している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の消耗品、嗜好品の購入時に本人にも同行していただいている 遠方への外出に関しては家族に対応していただいている	個人の消耗品や嗜好品は家電量販店やホームセンター等で購入するため外出している。家族と一緒に外食に出かける方もいる。お墓参り等遠出のドライブには家族の支援も頂いている。アウトカム等からも車の使用に課題が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある入居者はある程度の金額は本人管理していただき、本人管理難しい方については職員が管理している 外出時などに本人持ちの現金で買い物していただいたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話に関しては特に制限等はしておらず本人の希望に添うようにしている 携帯電話の持ち込みしている入居者も有り		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせたレイアウトを行うように心がけている 混乱を軽減できる様に工夫している	入居者や職員は、地元の人が多く会話も方言で和やかであり、夏の温度や冬の湿度は、加湿器も使う等職員が調整している。空気のもよみや臭気のようなものは感じられなかった。いろいろな手工芸品が飾られ季節を感じさせるものもあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では各々落ち着く場所が有り、過ごしている 作業やその時の入居者の気分に応じて職員が誘導する事もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々のそれまで暮らしてきた環境を大事にした居室作りを心がけている 又、混乱の要因になる物などについては家族と話し合い検討している	それぞれ身の回りのものが持ち込まれている。写真が飾られたりお位牌なども持ち込まれていた。和室にはちゃぶ台やテレビもありお茶飲みの風景も想像でき、ほっとする自分の居場所になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不必要な戸や設備など外し入居者が分かり易い環境になるよう工夫している		